

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501939		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホーム白山		
所在地	津市白山町南出954		
自己評価作成日	令和3年10月30日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470501939-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 1 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の経歴や人生経験も、入居者様によって違っており、入居者様のお話をよく聞いて苑での生活を楽しく過ごしていただくように努めることをモットーにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「山ーグループ」は、津市を中心として「人生の半分は自分の為に、後の半分は人の為に」の理念に基づき、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、有料老人ホーム、訪問介護、デイサービス、サービス付高齢者向け住宅、居宅介護支援事業所等を設置しており、「心のケア」を目指しながら介護支援に力を入れている。その中のグループホーム白山は合資会社三重福祉会が運営する丸15年を迎える2ユニットのグループホームである。建物や庭も広々としており、フロアーから四季折々の景色、田畑の耕作状況や近隣の人々の動きが見える等、環境も良い。職員は利用者の想いを大切にしながら一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。フロアーで寛いでいる時、利用者から自然に歌が流れコーラスにまで進展する等、事業所での生活に満足されている様子が伝わる話等、深い信頼とチームワークの良さが伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、三重福祉会のものとして職員で考えた白山苑のものがある。各ユニットに掲示している。	法人の考えである『ともに生きる喜びを見出せる「心のケア」』を中心に、事業所独自の理念「地域のひとと協力し、思いやりでともに明るく暮らせる苑」を日常的な支援から常に目指すように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、今年も病気感染でできませんでした。	開設時より利用者や職員に近隣在住の住民が多く、つき合いやすい環境である。コロナ禍で地域との交流は少ないが、周辺を一人散歩する人、犬の散歩する人、耕作する人等がフロアの窓越しによく見え、双方の刺激にもなっているなどで交流の深さが感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年もコロナ感染の為中学生の職場体験や見学ができませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、11月からようやく運営推進会議ができるようになりました。	コロナ禍の前までは定期的に運営推進会議を開催していたが、今年度は11月10日にやっと開催したのみである。家族の参加も予定していたが代表1名の参加のみであった。休会中の記録はしても、メンバーに報告していない。	運営推進会議の休会中も、各参加者に事業所の様子や会議本来の目的等を伝える事により、利用者への更なる充実した支援や、家族が参加しやすい工夫をされる等、更なる強靱な協力体制が得られる事を希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつもの様に運営推進会議で参加していただいている方との交流ができないのでわからないことや報告等は電話ですしています。	法人の行政との連携は強く、事業所自身でも相談や報告等積極的に取り組んでいる。訪問は控えているが電話での連携は密に取っている。また生活保護受給者の受け入れも積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マスク、手洗い、うがいその他感染防止に気を配り職員が集まって虐待身体拘束に関する話し合いをしています。	毎月、代表会議で身体拘束についての話し合いや研修をしている。それをユニット会議へ報告し、話し合いや研修でさらに深め正しく理解し、身体拘束をしない支援を常に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りの時やカンファレンスの時に虐待防止について話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マスクをして職員と職員の間をとり、権利擁護・後見人制度について話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項の説明を十分に行い、疑問点や不安等を解し、また納得してから契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見や要望等を入れてもらえるようにしている。意見や要望等改善できるものがあれば改善している。	運営に関する意見は少ないが、末期がんの薬の相談、複雑な知り合いとの面会の取次ぎの方法、自分の衣服を切ったり、糸で繋いだり、ベッドを傾けて使う等、利用者の複雑な症状の相談にも応じて、安全で安心に過ごせるよう事業所全体で取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見箱を設置しており匿名で意見を投函できる様にしている。内容に関し、代表者・管理者・職員で話し合い全員が納得するまで意見交換している。	毎月の会議や毎日の申し送り等で自由に話し合っており、法人の会長とも直接話せば、対応も早い。それで研修も希望を叶えてくれるため自己研鑽に繋がり、仕事への意欲も増すなど良い関係性ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場に顔を出して見学したり、職員と会話をしたりしてコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑としては、介護福祉の勉強・講習に参加し、受験していただける様に、介護福祉の講習のパンフレットを配布して受講・受験を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	病気感染の予防の為、他との交流はできない状態なので同じ会社内での交流や勉強会をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様と面談し、本人が困っていることや不安なことを聞き取り調査する。また、マスクをしていただき施設見学、施設の生活における要望を聞いてサービス担当者会議で話し合いケアプランに反映できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問などをして話を聞き、また、施設見学をしてもらい、不安、困っていることや要望等を聞いてサービス担当者会議で話し合い、ケアプランに反映できる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の身体状況を確認すると共にご家族様の意向と要望を確認してアドバイス等をしている。必要があればその他の介護施設、保健施設の入居申込を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や台所での調理の味見をもらったり、洗濯物を干す手伝いやおしぼり、清拭タオルをたたんでもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様から色々な訴えを聞き、それに対してご家族様と話をし、利用者様に一番良い方法を模索している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と通院で外出する以外できるだけ外出は控えていただく様にご家族様に頼んでいます。	利用者も職員も地域からの方が多く、常日頃から地域の話に盛り上がるなどある種の馴染みの関係を楽しんでいる。コロナ禍で事業所と地域の方達との交流は今では挨拶くらいだが、関係性は途切れていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が声かけしてゲームや職員も一緒に参加して少し昔の歌を歌って孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても、その後の様子等を伺ったり、必要に応じ相談させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族様からの要望や意向をプラン作成前に伺いプランに記入している。	毎日の申し送りや日々の支援にあたり、気が付いた事を記録し、話し合いや意見交換しており、利用者の思いや意向を全体で把握している。毎月のユニット会議で更に深く話し合い、良い支援に繋がるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時、御家族様と面談しフェースシートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、家族様と面談時、心身状態を伺ったり、介護保険の認定にかかわる調査票、主治医の意見書等資料を前もっていただきアセスメント表に記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、ユニット会議を行い必要時アセスメントを行う。又、特に問題がなければ、サービス担当者会議を行い、ケアプランを作成している。	介護計画は日頃の支援を基にユニット会議で話し合い、モニタリングは申し送り、記録等から毎日話し合い作成している。定期的な見直しを全職員で行い、次の支援に繋げている。介護計画は家族とも話し合い、まとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに介護を行ったことを個別に記録している。朝、夕の申し送り時に、情報の共有をしています。3ヶ月に1回ケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や御家族様の状況に応じ、病院受診への送迎等には付き添い、施設としてできる限りのことはしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの野菜やお菓子販売所の前の花壇に利用者様と一緒に見に行きました。コロナ感染のためボランティアの歌や踊り等は、出来ませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度かかりつけのクリニックから往診に来てもらっている。また利用者様の身体状況に変化が見られた場合は、ご家族様に連絡して受診往診等の承諾を得てから診察をしてもらっている。	2週に1回協力医の往診、月1回歯科医の往診があり、適切な医療を受ける体制は整っている。協力医は家族とも綿密に話し合う等、信頼関係も厚い。緊急時は協力医以外にも連携できる病院もあり、安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様のバイタルチェック表に記載してある情報をおかかりつけのクリニックにFAXで送ったり、往診時も看護師の方に再度見てもらって助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、治療経過をご家族様やケアワーカーと電話で話を聞かせてもらっている。また病院に行き看護師やケアワーカーに退院後の相談を行い円滑に退院できるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前、御家族様に重度化した場合施設で対応できること、できないことを十分に説明している。終末期に対しての希望を聞き主治医、ご家族様と話し合いをし、他の医療機関に紹介してもらったり、他の介護施設に入所できるようにしている。	看取りは現在行っていない。入居契約時に説明を行っているが、話し合いや協力体制は整っている。今までも法人運営の施設への入所や医療機関への情報提供、その後の状況を聞く等で家族にも喜ばれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回だけ消防訓練に消防署職員さんに参加してもらっているが、消防訓練のみでコロナ感染防止の為、応急手当や初期対応の訓練はできませんでした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設のみで避難訓練を行っています。	総合防災訓練は毎年4月10日に行っている。コロナで消防署は参加しないが、消防の指示で先日消火訓練を行い、外国籍実習生2名と新人職員1名を中心に消火器の使用方法を学んだ。夜間訓練や救急訓練は近く予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でオムツ交換を行う際、居室をノックしドアを閉めてから声掛けしてオムツ交換をしている。またトイレ誘導を行う際には周囲の人にわからないように声掛け等配慮している。	日常的な支援時に尊厳やプライバシーについては気を付けている。特に声掛けや言葉使いには毎日の申し送り時や会議の時などにみんなで注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で服を選んでいただいている。トイレや起床、就寝を自発的にしていただけるように声掛けしたり、また自分で決めていただくから介助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに参加したい方は、参加していただく。また、掃除、散歩、昼寝をしたい方はしていただき、常に利用者様の希望や個々のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、自分で選んでいただく、また施設に来ていただいた美容院の方に好きな髪形を自分で言っていたいでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食が進むように材料の色どりに気を配っています。片付けやお膳も拭いてもらっています。	献立・材料は業者、調理は事業所で行っている。野菜が少ない時は近所から頂ける野菜を使い、充実した食事内容にしている。盛り付けの工夫、料理内容など常に気を使い楽しんで食事できるよう心掛けている。調査日の食事も目に楽しく、食べやすい昼食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嚥下機能に応じた食事形態(普通食、全粥、一口大、刻み、トロミ付き、ミキサー食)を提供している。お茶、水等にトロミをつけて飲んでいただく時もあり、水分を取りたがらない方には、1日数回に分けて飲んでいただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、介助で歯みがきをしていただいている。就寝時には、義歯を洗浄液につけて寝てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して個別にトイレの声掛けや、トイレの移動、移乗介助する等の支援をしている。	布パンツは2人、他はリハビリパンツである。日中は2ユニットとも全員トイレで排泄できるよう自立支援に力を入れている。便秘の調整は運動や食事(野菜を中心に)で行い、薬は極力使わないように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多くしたりする工夫をしている。水分を多く摂取していただいている。歩ける方は歩いていただく、体操も参加していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿って入浴できるように準備している。また入浴拒否があれば入浴する曜日を変えたりしている。	週2回から3回、午前中に入浴を楽しんでいる。庭に柚の木があり毎年ゆず湯をととても楽しみにしている。リフト浴もあり、入浴後にお茶の準備を利用者がする等一人ひとりに合った支援と楽しさを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、眠りたいときに寝て頂いたりしている。昼寝をしたい時は自由にしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報ファイルがあり、常に職員が確認できるようにしてある。服薬の見守り、服薬の介助の確認をしている。また薬の変更があれば申し送りで報告し様子観察、異常があれば主治医に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割作りをし、台所のお手伝いや、花の水やりをされる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新年の初詣に出かけたりしている。	広い庭に歩きやすいようコンクリートの道がある。事業所の周りは田や畑があり、四季を楽しみながら散歩出来る環境である。庭の草取りやベンチでお喋りし、ティータイムなどコロナ禍で外出は出来ないが事業所の庭で自然を満喫している。来年の初詣には楽しみである恒例の近くの神社参りへ出掛ける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人、御家族様の依頼があればお金を預かり、買い物があれば買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をしたいとの希望があれば、電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はバリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりがついている。	建物も庭も広く、歩くだけで運動になる長い廊下もある。また三方面に大きな窓があり、光も入りとても明るく、日向ぼっこが自然と出来るフロアである。大半の利用者がのんびりと過ごせる居心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分のフロアにはソファが置いてあり、自由に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビが置いてある部屋があり、1人でテレビを見て楽しんでおられる。居室は個室になっておりプライバシーが守られている。	全室8畳ほどの広さと1畳ほどのクロゼットがあり、広々としている。沢山の服やテレビを持ち込み自分流に過ごせる工夫や何度も夜中に起きてくる利用者へのベッドの工夫等それぞれが居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアに名札がかけてあり、トイレや浴室にも分かるように表札をかけてある。		